

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 12010290

政策目標	3 のびやか・雄武～教育・文化の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	12 学校教育の充実	事業優先度	A	
単位施策	5 高校への継続的な支援	政策事務分類	1 単独自治事務(例規)	
事業名	雄武高等学校生徒資格取得支援助成事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	12 教育委員会教育振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	資格取得者数		#N/A	
事業目標	50人/年	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	無	関係例規・法令名	有 雄武高等学校生徒資格取得支援助成交付要綱	
住民協働		関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容
計 画 内 容	資格取得受検費用の助成	資格取得受検費用の助成	資格取得受検費用の助成	資格取得受検費用の助成	資格取得受検費用の助成	資格取得受検費用の助成
	事業費(千円)	500	100	100	100	100
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	500	100	100	100	100	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	102	102	0	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	102	102				
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等) 資格取得受検費用の助成	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果	※前年度評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 50人	50人	50人	50人	50人
	年度達成率	102%	0%	0%	0%	0%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率 20%	20%	20%	20%	20%
	事業進捗状況	☆☆☆☆				

事業名 雄武高等学校生徒資格取得支援助成事業	評価者 管理職 職氏名	教育振興課	課長 石井弘道
	評価者 作成者 職氏名	教育振興課教育総務係	係長 武藤知憲

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武高等学校	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	資格取得者数
【抱える課題やニーズは】	生徒数の減少から、高校の存続が問題視されている。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	教育環境の改善を図ることにより、入学者数の減少の抑制を図り、生徒数を維持する。	① 資格取得者数	目標年度 平成25年度
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	生徒数を維持することにより、地域の学校として存続が図られる。		目標値 50人
			実績値 99人
		②	達成度 198.0%
			目標年度 平成25年度
			目標値
			実績値
			達成度 #DIV/0!%
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	資格取得受検費用助成	生徒99名に対し、資格取得受検費用の助成を行っています。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	雄武高等学校を地域の学校として存続させるためには、入学者数の減少の抑制や魅力ある学校づくりの推進が重要であり、引続き行政支援が必要であると判断します。
必要/概ね必要/課題あり	<input type="checkbox"/>	全部	
	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	ソフト面での教育環境の整備を図ることにより、生徒数の確保が図られています。また、助成対象者を合格者に限定していることから、生徒の学習意欲の向上にもつながっていると判断します。
有効/概ね有効/課題あり	<input type="checkbox"/>	達成	
	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

	<input type="checkbox"/>	判断の理由	補助対象者を合格者に限定していることから、コストに見合った効果が得られていると判断します。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

	<input type="checkbox"/>	判断の理由	生徒数の維持を図らなければ、高校存続に大きく影響することから、公平性の観点からは問題がないと判断します。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
雄武高等学校の生徒数を維持するとともに、魅力ある学校づくりを推進し、地域の学校として存続させるための支援であり、計画どおり事業が進んでいます。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
北海道教育委員会が策定する「公立高等学校配置計画」の今後の計画が不透明な中において、雄武高等学校の存続を図るためには、生徒数を維持することが不可欠であり、今後も計画通り事業を進めることが適当であります。		

※展開方向の区分

- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
- 終了 ○休止 ○廃止